



8月19日 笑顔の登校日

8月19日(水)は夏休み中の登校日でした。笑顔で登校し、久しぶりに顔を合わせて楽しそうに近況を報告しあう姿を見てとても嬉しく思いました。夏休みもあと残りわずかとなりました。まだまだ暑い日が続きます。安全には十分気をつけて、充実した過ごし方を心がけてください。そして8月31日(月)に全員そろって2学期始業式を迎えましょう。

平和への祈り 平和記念式典

広島に原爆が投下されてから81年目の夏を迎えました。毎年、8月6日の平和記念式典では、市内の小学6年生が平和への思いを込めて書き上げた作文をもとに、こども代表の2名が「平和への誓い」を世界に向けて発信しています。

今年の「平和への誓い」にもあるように、私たちにできる平和への第一歩は、当時の悲惨な事実から目をそらさずに学び、語り継ぐこと、そして相手の気持ちを想像し、意見の違いを認め合って行動することです。一人一人の小さな行動や表現が、未来の平和を創り上げる力になります。身近な生活の中で自分にできる「平和への一歩」とは何かを考えるきっかけにしてほしいと思います。今年度の「平和への誓い」を紹介します。

「平和への誓い」

もしも「大切なもの」が一瞬で消えてしまったら、どんな気持ちになるのでしょうか。

私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があります。

今もどこかで、当たり前の日常がうばわれています。

ぼろぼろになった制服。 黒く焦げたお弁当箱。

それは、当たり前の毎日を生きていた証です。

昭和20年(1945年)8月6日、午前8時15分。

たった一発の原子爆弾が、人々の暮らしを、人生を地獄に変えました。

髪は焼けちぢれ、全身の火ぶくれが破れ、火傷した皮膚が垂れ下がった人々。

「痛いよ。苦しいよ。」 「助けて、お母さん。」

「死にたくない。」 「助けてあげられなくてごめん。」

死んでしまうつらさ、生き続ける苦しみは、想像することさえ恐ろしいことです。

私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、

当時の記憶を事実として受け止める使命があります。

目をそらさず、知ろうとすること。 悲しい現実でも向き合うこと。

そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。

私たちには、広島の子どもとして、行動する責任があります。

相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。

平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。

一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。

平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。

こどもである私たちも、その一員として平和への一歩を踏み出します。

かけがえのない「大切なもの」を、確かな希望を、未来へ届けるために。

